
実動訓練への参加を通してみた院内災害教育の課題

(高田由紀子ほか、日本集団災害医学会誌 22: 210-218, 2017)

2018年1月26日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

災害訓練は、近年の自然災害等に対する関心の高さから病院組織だけでなく関連する自治体組織と共同して開催されるようになった。災害訓練は病院職員に災害に対する備えの重要性を認識させる良い機会である反面、訓練であるがゆえに予定調和とならざるを得ず、より現実味のある訓練を実施することが課題となっていた。また災害訓練は病院職員全員が教育対象であり、様々な年齢、立場、職業的役割等によって集団を構成していることから、自ら学び他者と共同することでより深めあう成人教育の視点が必要である。今回、平成 27 年度政府大規模地震時医療活動訓練に参加した際の訓練参加者の行動を成人教育の観点から分析することは、継続教育として今後の災害教育における課題検討の一方策となりえると考えた。

本報告の目的は、訓練参加を通して、成人教育の視点から今後の災害教育の課題を明らかにすることである。分析方法は、本訓練に被災地災害拠点病院として参加時の参加観察の概観および訓練参加者意見を収集し内容分析を行った。その結果、参加観察から災害対策本部における情報の優先度や情報量に混乱が生じたことがわかった。また内容分析から 8 カテゴリーを抽出した。訓練参加者は【情報管理の困難さと重要性】を知り、【指揮システムの脆弱性】に気づいた。また訓練を通して【部署内から問題を見出す】相互評価から、【診療継続の課題提起】【患者管理の問題提起】【人材活用と役割発揮の課題】【災害の備えに関する問題提起】がなされ、【訓練を活かす】という内的動機づけの構造がわかった。

今後の災害教育の課題として本訓練企画時は、成人教育の要素から訓練を構成していなかった。成人教育の視点から分析した結果、問題や課題中心に関心を寄せる成人の特徴や訓練中から参加者や部門同士の相互交流が促進され、外的動機づけに重点は置いたものの学習者である訓練参加者の内的動機づけにつながる組織の土壌を見出した。このことから病院職員を成人学習者として改めて尊重し、より自己主導的性

学習を災害計画に組み込んでいく

本訓練で見出した多重課題に複数の部門が協働して取り組む姿勢をより促進するには、成人教育の視点を持って学習者に働きかけることが重要である。そこで本訓練で部署・部門ごとに見出した課題について、それぞれの部署職員とともに職種役割や部署機能に応じた訓練を企画したい。部署・部門ごとの訓練は企画時から平時の業務と比較することによって災害をより身近な問題としてとらえ、職員自身のをより促進し、学習者の自己概念にも働きかけることができると考える。

これまで Disaster ABC コースやミニ訓練で災害対策本部設置は行っていたものの、行政や関係機関と連携する、病院、院内外の様々な情報を集約し災害拠点病院の組織としての判断を求める実動訓練は行っていなかった。この点について、特に管理者、幹部職員には役割行動の明確化、情報管理、組織判断の訓練を今後の災害教育テーマとして取り上げたい。臨床における高い判断力が求められる責任ある立場にある管理者や幹部職員を対象とする場合災害時だけでなく平時から活用できる地域の病院間連携、行政との連携につながる災害教育を企画することで、それぞれの役割発揮できる場となり、病院組織機能の質改善にもつながると考えられる。

Disaster ABC コースやミニ訓練等、全職員に対する繰り返しの災害初動訓練を継続するとともに、災害訓練を災害拠点病院の義務としての位置づけではなく、臨床における成人教育として捉え、職員を尊重した自己主導性学習に基づいた災害教育を目指す。そして学習者自ら問題提起したことが今後の災害教育のテーマとして取り上げられ、かつ教育計画に参加し、ともに働く職員同士が相互に学びあえる方法で災害教育を行うことを、災害教育の柱としたい。